

日本土壤微生物学会設立50周年を迎えて

木村真人(名古屋大学大学院生命農学研究科)

1954年 「**第1回土壤微生物談話会**」開催(本学会の設立)

1960年4月 「**土壤微生物研究会**」に改称

1960年1月 会誌「**土と微生物**」第1号発行(現在58巻)

1962年6月 「**土壤微生物通信**」創刊

1966年 土壤微生物研究会編「**土と微生物**」(岩波書店)学会設立10周年を記念

1975年 土壤微生物研究会編「**土壤微生物実験法**」(養賢堂)

1981年 土壤微生物研究会編「**土の微生物**」(博友社)学会設立25周年を記念

1986年 「**土壤微生物通信**」終刊(第67号)

1992年:土壤微生物研究会編「**新編土壤微生物実験法**」(紀伊國屋書店)

1996~2003年 土壤微生物研究会/学会編「**新・土の微生物**」(博友社)全10分冊

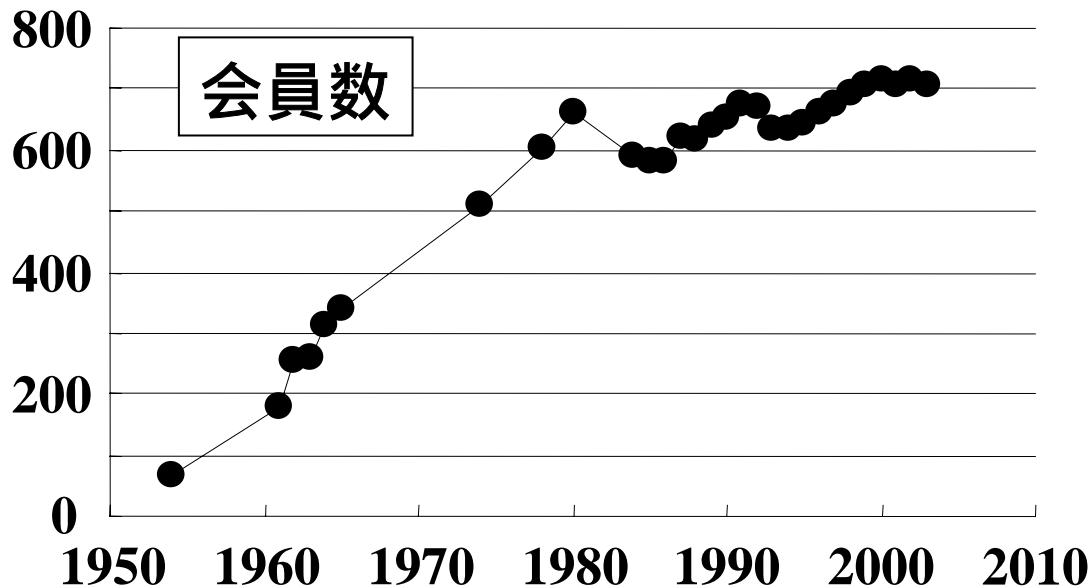
1998年 「**日本土壤微生物学会**」に発展

本学会の目的、活動

土壌微生物学者と植物病理学者が、研究の対象とする土壌の微生物に関する試験・研究の展開と農業技術への寄与を目的とする学際的な学会

初期の活動は、

- 1) シンポジウムの開催
- 2) 会誌「土と微生物」の発行
- 3) 「土壌微生物に関する文献集」の発行
- 4) 「土壌微生物通信」の発行（1962 - 1986）
- 5) 土壌微生物に関する単行本の編集・出版



シンポジウム

土壌微生物に関係する学会内外の研究者の研究史や、その時々の社会や関連研究分野と土壌微生物研究の接点を反映したもの。
わが国の土壌微生物研究の歴史の記録。

～ 1983年

若手研究者を含めた広範な分野の演者によって微生物と土壌の関係の講演

1984年～

その時々の興味あるテーマの下にシンポジウムを開催

- 1984年「**有機物**と土壤微生物(農業生産並びに環境浄化の視点から)」
- 1985年「土壤微生物と**バイオテクノロジー**」
- 1986年「**免疫学**の最近の進歩と土壤微生物学への適用」
- 1987年「**今話題の土壤微生物**」
- 1988年「**組換え微生物**の農業利用 野外での利用を中心にして 」
- 1989年「**土壤病害**と土壤微生物」
- 1990年「微生物の**環境適応**機構」
- 1991年「野菜・花きの**土壤病害**をめぐって」
- 1992年「土壤微生物としての*Pseudomonas*属細菌」
- 1993年「土の**微生物世界**」
- 1994年「**共生**土壤菌類と植物の生育」
- 1995年「微生物の**環境導入**とその技術的問題」
- 1996年「土壤微生物制御による**環境保全型農業**への展望」
- 1997年「共生・寄生微生物の**進化**と**環境適応**」
- 1998年「**環境**と土壤微生物」
- 1999年「農業における**微生物利用**と土壤微生物研究」
- 2000年「土壤微生物**研究のパラダイム**」
- 2001年「アジア地域との微生物研究のネットワーク アジア微生物の**多様性**解明と有用機能の開発 」
- 2002年「**環境保全型農業**のための微生物利用:複合微生物系における有用微生物の動態と制御」
- 2003年「**土壤伝染病原菌**の防除対策 ジャガイモそうか病をめぐって 」

農業と微生物
微生物生態
研究手法

「土と微生物」

土壌微生物談話会:1954～1959「**講演並びに討論記録集**」(第1～7集)

土壌微生物研究会:「**土と微生物**」第1号(1960)現在に至る(第58巻2004年5月)

初期の掲載論文:毎年開催の**シンポジウム**における**講演内容**を基とした論文

「ネマトーダの話(国井喜章)(第1号1960)」

「農薬施用と微生物(石沢修一)(第2号1961)」

「沖縄における土壌病害概観(荒木隆男)(第10号1968)」

「Azolla and its use in lowland rice culture. Watanabe I.(第20号1978)」

1987年から年2号発行、前後して、原著論文も掲載

「Properties of fluorescent pigment-producing *Pseudomonas* strains isolated from soil and roots of cucumber (K. Katoh)(第33号1989)」**最初の英語の原著論文**

45巻(1994)以降、ほぼ各号**英文報文**が掲載

「土壤微生物通信」

50年間を流れる「**本学会の気風・精神**」の確立に寄与 < 民主的 > < 開放的 >

東北大学農学研究所古坂澄石研究室室員の献身的努力

1962年6月：「土壤微生物通信」創刊

主旨・目的：「土壤微生物学者が当面している一番大きな問題は、分散的なお互いの研究をいかにして集中し、論争点や解決すべき課題を明らかにすること」（服部 勉、創刊号より抜粋）

「若い研究者が、全国的な意見の交流の中で一層広い視野を持つ新しい型の研究者として育つことは、大変大切」との本学会員の共通認識から、自由に意見交換する広場・通信が目的

1986年12月：「土壤微生物通信」終刊（第67号）

本学会の草創・発展期から、充実・新たな飛躍への節目の時期

「四半世紀前に、< 新しい時代 > に向けて発刊した < 通信 > の役割を終らせ、今日の新しい世代の方々の新しい創造的試みを期待したい」（服部 勉、終刊号より抜粋）

土壤微生物研究会編『土と微生物』（岩波書店、1966年）

土壤微生物談話会の**10周年を記念**して出版

当時、土壤微生物学をわが国に根付かせようとされた諸先輩の努力と熱い思いが伝わる
記念すべき書

「土壤微生物学は最近10年に至るまで日本の国に住みつきえなかった」と振り返り、「この10年間の成果をもとに現時点における日本の土壤微生物学の位置付けと将来の方向を見出すための作業の一環として出版」

「わが国の土壤微生物学者達が何をどのように考え研究しようとしているか」

「わが国の土壤微生物学者達がこの国の土壌の特殊性を十分生かすと共に、わが国の微生物学や土壌学のよき伝統をできるだけ正しく受けつごうとしているか」

「わが国の土壤微生物学がより広い視野でより全面的に発展する必要のあることの強調」
(古坂澄石)

土壤微生物研究会編『土の微生物』(博友社、1981年)

学会創立25周年を記念して刊行。先の『土と微生物』からの第2の里程碑

その後の土壤微生物学の発展をわが国の研究を中心に、諸外国の成果を加えて編纂わが国の土壤微生物学の著しい進歩を詳しく紹介

書名が、前回の「土と」から今回「土の」に変更した理由:

「前は微生物と土壌との関係が十分には解明されていない段階であったが、今回は土壌とのつながりを更に一步深めると言う意図」(古坂澄石)

この間の土壤微生物学の進歩に対する諸先輩の自負を強く感じる。

土壤微生物研究会 / 日本土壤微生物学会編『新・土の微生物(全10冊)』(博友社、1996 ~ 2003年)

『土と微生物』、『土の微生物』を改定し、最新の土壤微生物像を紹介
本学会が「日本土壤微生物学会」へと改称・発展した時期に前後

社会の土壤微生物に対する高い関心と分子生物学や微生物工学の最近の進歩に触発された土壤微生物学の現状を紹介

「本シリーズのような10冊にも及ぶ土壤微生物のモノグラフシリーズは、世界に例をみない」(服部 勉)企画

土壤微生物研究会編『土壤微生物実験法』（養賢堂、1975年）

土壤微生物談話会が発足して20年近くを経過し、

「土壤微生物の研究においてもっとも欠けていることは日本語の土壤微生物の実験法がないことであり、このことが測定法の不統一などを招くとともに土壤微生物に興味をもっている研究者が土壤微生物に入りにくい状況を作り出している」（鈴木達彦）

「本書のみによって、土壤微生物の知識のない人でも正確に実験が出来ること、えられた実験結果の解釈を可能にすること」

当時の土壤微生物に関する実験手法を網羅するきわめてユニークな実験書

土壤微生物研究会編『新編土壤微生物実験法』（紀伊國屋書店、1992年）

先の『実験法』は、多くの土壤微生物を取り扱う研究者に利用され好評であったが絶版

この間、「バイオテクノロジーの発展にともなう遺伝子組み換え微生物の環境中での動態、微生物の多様性、有害物質・廃棄物の微生物処理、有用物質産生遺伝子の探索、導入微生物による植物生育促進・病害虫防除」（鈴木孝仁）

前書を補うとともに、新たな時代の要請に対応した実験書。

現在も土壤微生物研究のためのマニュアルとして広く利用される。

日本土壌微生物学会は、輝かしい足跡を50年の歴史に刻み、今日を迎えた

「若い会員の自由で創造的な意見交換」を支えとして運営

歴代会長

奥田 東 (1960-62)	石沢修一 (1962-64)	古坂澄石 (1964-70)
鈴木達彦 (1970-74)	山口益郎 (1974-78)	飯田 格 (1978-82)
吉田富男 (1982-84)	沢田泰男 (1984-86)	荒木隆男 (1986-88)
和田秀徳 (1988-90)	鈴井孝仁 (1990-92)	服部 勉 (1992-94)
生越 明 (1994-98)	丸本卓也 (1998-01)	百町満朗 (2001-03)

全体は、きっとどこか個々の部分の総和とは違う。(M.プランク)

「土壌微生物通信」創刊号

これまでの50年、これからの50年

どのように？

「若い会員の自由で創造的な意見交換」を支えとして運営
「**土壤微生物通信**」の精神

なにを？

「わが国の土壤微生物学者達が何をどのように考え研究しようとしているか」
「わが国の土壤微生物学者達が**この国の土壤の特殊性を十分生かす**と共に、
わが国の微生物学や土壤学の**よき伝統をできるだけ正しく受けつごう**としているか」(古坂澄石)

土壤微生物研究会編『土と微生物』(岩波書店、1966年)